

令和3年11月19日  
(2021年)

保護者の皆さまへ

吹田市立吹田第一小学校  
校長 津田 一 司

## 令和3年度 全国学力・学習状況調査の分析について

本年度、6年生を対象として「令和3年度全国学力・学習状況調査」を実施し、9月中旬に個人ごとの結果をお返ししました。また吹田市でも、今回実施した調査結果の概要を吹田市のホームページを通じて公表しております。

この調査は小学校の最終学年のみを対象とした調査であり、教科も国語・算数・理科(今年度は国語・算数のみ)に限られ、測定されたものは学力の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。そのことを踏まえつつ、調査によって得られた課題を明らかにし、その改善に全力を注ぐことが、調査本来のねらいであると考えております。

対象となった6年生には、よりきめ細かな指導ができるよう取り組みを進めるとともに、学校全体として課題に応じた学力向上につながる具体的な指導法の工夫改善も図ってまいります。各ご家庭におかれましても、以下の分析結果をもとに、今後の家庭学習の指針として、参考にして頂きますようお願いいたします。

### 1. 教科に関する調査結果の分析

#### ●国語

##### 《概要》

結果分布は正答数の多い側に分布し、平均正答率は全国値とほぼ同じ結果となっている。無解答率を見ると、ほとんどの問題で全国値を下回っている。

##### 《各領域における成果と課題》

###### 話すこと・聞くこと

- ・この領域の問題では平均正答率が全て全国値を下回っている。
- ・「目的に応じ、話の内容が明確になるようにスピーチの構成を考える」ことや、「資料を用いた目的を理解する」ことについて課題がある。

###### 書くこと

- ・この領域では、平均正答率が全て全国値を上回っている。
- ・「自分の主張を明確にし、文章全体の構成や展開を考える」ことは、全国値を大きく上回っている。

###### 読むこと

- ・「目的に応じ、文章と図表とを結び付けて必要な情報を見つける」ことや、「目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約する」ことは、全国値を上回っている。
- ・「文章全体の構成を捉え、内容の中心となる事柄を把握する」ことについては課題がある。

###### 言語の特徴や使い方に関する事項

- ・「文の中における修飾と非修飾との関係を捉える」ことは、全国値を大きく上回っている。
- ・「学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う」ことは概ねできている。
- ・「文の中における主語と述語の関係を捉える」ことについては課題がある。

## ●算数

### 《概要》

結果分布は正答数の多い側に分布し、平均正答率は全国値を上回る結果となっている。  
無解答率を見ると、すべての問題で全国値を下回っている。

### 《各領域における成果と課題》

#### 数と計算

- ・この領域では、平均正答率が全て全国値を上回っている。
- ・「2つの道のりの差を求めるために必要な数値を選び、その求め方と答えを記述する」ことでは、全国値を大きく上回っている。

#### 図形

- ・「三角形の面積の求め方を理解する」ことや、「複数の図形を組み合わせた平行四辺形について図形の要素などに着目し、図形の構成の仕方を捉えて、面積の求め方と答えを記述する」ことでは、全国値を大きく上回っている。
- ・「複数の図形を組み合わせた図形の面積について、量の保存性や量の加法性を基に捉え、比べる」ことについては、課題がみられる。

#### 測定

- ・「条件に合う時刻を求める」ことについて課題がみられる。

#### 変化と関係

- ・全ての問題で平均正答率が全国値を上回っている。
- ・「速さを求める除法の式と商の意味を理解する」ことは、全国値を大きく上回っている。

#### データの活用

- ・「データを2次元の表に分類整理する」ことや、「帯グラフで表された複数のデータを比較し、示された特徴をもった項目とその割合を記述する」ことは、全国値を大きく上回っている。
- ・「棒グラフから数量を読み取る」や「棒グラフから項目間の関係を読み取る」ことは概ねできている。

## 2. 生活習慣や学習環境等に関する調査の傾向

### ●生活に関するアンケート

#### 《生活について》

- ・「朝食を毎日食べている」児童の割合は、全国値を下回っている。
- ・「毎日同じくらいの時刻に寝ている、起きている」は、全国値を下回っている。

#### 《総合的な学習の時間・特別活動・道徳》

- ・「ICTをどの程度活用したか」については、「週1回以上」や「月1回以上」では全国値を上回り、「月1回未満」、「ほぼ毎日」では全国値を下回っている。
- ・「学級活動における話し合いや、自分の考えを発表する機会に相手の考えを最後まで聞き、友達の考えを受け止めて自分の考えをしっかりと伝える」ことや、「自分の考えがうまく伝わるよう、工夫して発表している」ことで、全国値を下回っている。
- ・「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる」ことは全国値を下回っている。
- ・「道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合い活動に取り組んでいる」では、全国値を下回っている。

### 《自己肯定感について》

- ・「将来の夢や目標を持っている」児童の割合は、全国値を上回っている。
- ・「難しいことでも失敗を恐れず挑戦する」は、全国値を下回っている。

### 《家庭学習について》

- ・「家で自分で計画を立てて勉強している」児童の割合は、全国値を下回っている。
- ・学校の授業時間以外に、1日あたりどれくらいの時間、勉強していますか（学習塾、家庭教師、インターネット学習を含む）については、平日、休日とも、0～1時間までが全国値を上回り、1時間以上では全国値を下回っている。

### 《地域・社会への関心について》

- ・「地域行事に参加している」児童の割合は、全国値を下回っている。

### 《いじめについて》

- ・「人が困っているときは進んで助ける」ことは、全国値を上回っている。
- ・「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う」では、全員が肯定的に答えており、全国値を上回っている。

### 《学習に関する質問》

#### 国語

- ・「国語の勉強が好き」と答えた児童の割合は、全国値を下回っている。
- ・「国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う」は、全国値を下回っている。
- ・「国語の授業内容はよく分かる」と答えた児童の割合は、全国値を上回っている。

#### 算数

- ・「算数の勉強が好き」、「算数の勉強は大切だ」と答えた児童の割合は、全国値を上回っている。
- ・「算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う」、「解き方が分からないときにはあきらめずにいろいろな方法を考える」では、全国値を上回っている。

#### 英語

- ・「英語の勉強が好き」と答えた児童の割合は、全国値を下回っている。
- ・「5年生までに受けた英語の授業では、英語で自分自身の考えや気持ちを伝え合うことができた」では、全国値を下回っている。

## 3. 今後の取り組み

### 《学習について》

国語においては、校内で国語の学力向上に焦点をあてて研究・実践を積み上げてきた成果が表れ、全国値を上回っている問題が多くみられます。特に、本校で力を入れている文章の構成を読む問題や、書くことの領域、条件作文問題などは、よくできていました。問題全般にわたって無回答率も全国値より低く、問題にねばり強く取り組もうとする意欲が育っていることがうかがえます。

一方、スピーチにおける資料提示の問題では誤答が目立ち、聞き手にわかりやすく発表内容を伝えるための資料を提示する、という意識が明確ではないように思われます。6年生に至るまでに、国語を問わず様々な教科の学習の中で、または学校生活の中で、資料を効果的に活用する場面を意識させていきたいと考えています。また、文法的な問題の誤答も多く見られ、全国値より下回りました。漢字については平均的にできているのに、主語・述語・修飾語など文法事項については、2、3年生からの学習内容で大きな躓きが見られました。低学年からの系統立てた指導を意識し、定着を図っていきます。言葉にていねいに向き合い、言葉のよい使い手になれるよう、授業実践も工夫してまいります。ご家庭でも、場に応じた言葉遣いや、責任をもって言葉を大切に使えるよう、声かけをよろしくお願いいたします。

算数においては、少人数指導を継続して実施してきた成果が表れ、正答率はほとんどの問題で全国値を上回っていました。正答率が全国値を下回った問題は、知識・技能に関する問題でした。また、全国値は上回り、無回答率は低かったものの正答率が低かった問題では、複数の事柄から正答の条件が1つ抜けているなどの誤答が目立ちました。解答として取り上げる条件が複数ある場合には、それらを全て取り上げて記述することが必要です。大事なことを落とさず順序立てて書く力を育てるために、国語や算数だけでなく他教科でも、図や言葉などの決められた条件を基にして、求め方を文に表す機会を増やすなど意識して指導していきます。

算数の授業で問題解決学習を継続して実施してきたことにより、長い問題文であっても児童の中で自力解決をしようとする姿勢が見られます。これは、3年生から6年生の算数の授業では少人数指導で細やかな指導が行えていることが大きいと考えています。今後も少人数指導を継続することで、児童一人ひとりに丁寧なサポートをして、児童の自己肯定感を高め、基礎的な学力の定着を図っていきます。そして、基礎的・基本的な知識・技能を活用することができることを目指し、読解力を養い、多様な問題への対応力を養うための取り組みを各学年に応じて進めていきます。ご家庭でも例えば「どうやって解いたの?」「なぜそう考えたの?」といった説明させる問いかけを意識的にしていただき、自分の言葉で説明する機会を作っていただけたらと思っています。

本校では、小規模校であることを生かし、放課後のステップアップ学習を含め、算数教室の開放など、授業外での基礎的・基本的な学力の定着を支援する様々な取り組みを行ってきました。コロナ禍においては、特に学習に不安を抱える児童が多く見られたことから、算数教室や各学級での放課後学習などにより、子どもたちの学力向上に努めているところです。家庭での自立した学習も念頭に、自ら学ぶ姿勢を育むべく進めていきたいと考えています。ご家庭でも子どもたちへの励まし、学習環境づくりへの支援をよろしく願いいたします。

## 《生活について》

「自分には良いところがある」と答えた児童の割合は全国値を下回っているものの、平成30年度からの経年変化を見ると、年々向上し、全国値との差がなくなってきました。自己肯定感を高めるような取組を、今後も引き続き進めていきます。また、先行きが不安な社会情勢ではありますが、「将来の夢や目標をもっている」児童が増えていくよう、自分に自信を持つことができる様々な体験を計画していきます。そのために、責任や達成感の伴う児童会活動、様々な人と触れ合う地域交流、仲間や自分の力を感じることでできる運動会や音楽会などの学校行事を充実させていきます。

いじめについては、頭でいけないことと考えるだけでなく、いじめで困っている友だちに自分から声をかけるような、行動のともなう児童の育成に努めていきます。そのために、各学年の道徳の授業やいじめ予防授業で、いじめについてみんなで考える場をつくり、日常の中でいじめにつながる出来事を見逃さず、学級で話し合い解決する場も持っています。また、家庭学習や体験活動の充実のためには、各ご家庭の協力が不可欠です。家庭との連絡を密にして、学校と家庭が同じ方向で支援していけるよう努めていきます。

以上、簡単ですが今後の学校の取り組みについてお伝えしました。

今後とも、学校と家庭と地域と協力して子どもたちをともに育てていきたいと思っています。そのために、課題を共有し、方針を同じくして子どもの指導に当たることがとても大切だと考えます。どうぞ、引き続きご理解ご協力をよろしく願いいたします。